



頼朝と三島 ～伝承をたずねる～



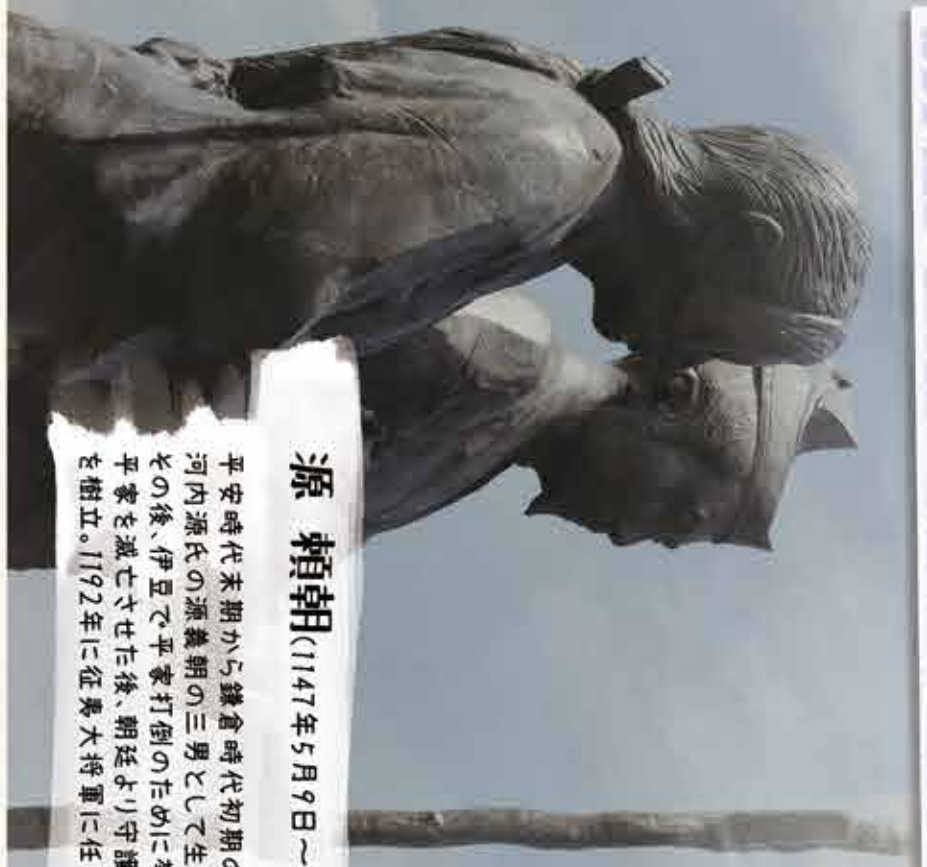
源頼朝

頼朝の歴史

久安 3年(1147) 源義朝の第三子として尾張国熱田に生まれる。
 保元元年(1156) 保元の乱起こる。
 平治元年(1159) 平治の乱起こる。父・義朝につき御陣。
 永暦元年(1160) 14歳、捕らえられ伊豆へ配流。
 承安元年(1171) 伊藤祐親の娘、八重姫と恋仲になる。
 承安 3年(1173) 八重姫との間に千鶴丸誕生。
 承安 4年(1174) 八重姫との仲が祐親に知られ、千鶴丸が殺される。
 治承元年(1177) 北条政子との結婚。
 治承 2年(1178) 頼朝と政子の長女・大徳誕生。
 治承 4年(1180) 以仁王より平家追討の令旨を受け、挙兵を志す。
 34歳、三嶋大社の館を襲撃する。
 心経を三嶋大社・蒲根、伊豆山権現など19社寺へ奉納。
 石橋山の戦いに敗れる。
 関東を平定して、鎌倉へ入る。
 富士川の戦いに勝利。弟・義経と再会。
 戦勝を謝して三嶋大社へ神領を寄進する。

養和元年(1181) 平清盛、没す。
 寿永元年(1182) 長男、頼家(のちの2代将軍)誕生。
 元暦元年(1184) 亀の桶との浮気発覚。
 文治 2年(1185) 堀ノ浦の戦い。源氏軍、平家軍に勝利。
 文治 4年(1188) 次男、貞盛誕生。
 文治 5年(1189) 奥州藤原氏に義経討伐を命じる。
 建久 3年(1192) 頼朝、奥州征伐に発す。奥国の支配権を得る。
 正治元年(1199) 征夷大将軍になる。
 三男、実朝(のちの3代将軍)誕生。
 没す。

頼朝と伊豆との関係は、1160年に始まりました。
 平治の乱に敗れ、父義朝を失い、平家方の捕らわれの身となった頼朝は、死罪を免れ伊豆
 葦山蛭ヶ小島に流され、以来約20年の流人生活を送ります。しかし、流人とはいえ伊豆国内
 での行動は自由がきいたらしく、伊東祐親のおすめ八重姫との悲恋や北条時政のおすめ政子
 との結婚など伊豆各地に頼朝の足跡を示す史跡が残っています。一方、配所(はいしよ)において
 平治の乱で死んだ一族の菩提を弔い、写経と念仏に明け暮れる日々だったともいいます。
 そして、20年を経た1180年、以仁王(もひとおう)より平家追討の令旨が頼朝の館に届けられ、
 源氏再興を決意するに至りました。



源 頼朝(1147年5月9日～1199年2月9日)

平安時代末期から鎌倉時代初期の武将で鎌倉幕府の初代将軍。
 河内源氏の源義朝の三男として生まれるが、平治の乱後に伊豆国へ配流。
 その後、伊豆で平家打倒のために挙兵。鎌倉に本拠をおいて関東を平定。
 平家を滅亡させた後、朝廷より守護と地頭を配する権限を奪い、武家政権
 を樹立。1192年に征夷大将軍に任じられ、鎌倉に開府する。

頼朝と三島 ～伝承をたずねる～

発行年月日：平成31年3月22日
 編集・発行：三島市教育委員会郷土文化財室
 〒411-0035 静岡県三島市大宮町一丁目8番38号
 TEL: 055-983-2672
 FAX: 055-983-0870
 Email: bunkazai@city.mishima.shizuoka.jp

三島の頼朝伝承はここから始まる

1 三嶋大社



三嶋大社は伊豆一宮として古来伊豆一円はもとより、朝廷からも崇敬されていました。祭神は富士山にも縁がある大山祇命と事代主神の二柱です。

源頼朝が配流となっていた蛭ヶ小島と三嶋大社は約9kmの距離にあり、神仏への崇敬深かった源頼朝が日常的に参詣したことは想像に難くありません。記録によれば、頼朝は挙兵にあたって三嶋大社に平家追討・源氏再興のため百日祈願に通ったといわれています。

治承4年(1180)三嶋大社の祭礼日(8月17日)に合わせて葦山で旗挙げた頼朝は、見事、源氏再興を果たしました。この後平家を滅ぼし、鎌倉幕府を開くことに成功します。毎年盛大に催される三嶋大祭り「頼朝公旗揚げ行列」はこの故事によるものです。

平家追討を成し遂げ「鎌倉」を創成した頼朝は、鎌倉の鶴岡八幡宮内にも三島社を勧請し、現在の葉山町にも三嶋大社を勧請した森戸大明神を創建するなど、三嶋大社への崇敬は篤くあり続けたようです。幕府が安定すると、頼朝は三嶋大社門前をはじめとする周囲一帯の整備を行いました。これにより三島は伊豆における政治・経済・信仰の拠点としての機能を整えたといえます。



頼朝・政子の腰掛石

鳥居をくぐってすぐ、参道右側にある石で囲われた松は頼朝の百日祈願の際従っていた安達藤九郎盛長が警備していた跡と伝わっています。そして、頼朝の寄進により放生会(ほうじょうえ)が行われたという神池を過ぎ、絵門をくぐると、神馬舎手前に頼朝・政子の腰掛石と呼ばれる二つの石が並んでいます。

境内併設の宝物館では三嶋大社の歴史がわかる宝物が見れます。中でも頼朝の下文(くだぶみ)や北条政子が奉納したといわれる国宝の梅時絵手箱(複製)はぜひ見たい展示です。他にも刀剣や古文書など貴重な資料を見ることが出来ます。



神池



安達藤九郎盛長警護の跡

所在地：三島市大宮町2丁目1-5
 アクセス：三島駅・三島田町駅から徒歩約15分
 駐車場有(有料、閉鎖期間あり)
 ※宝物館は9:00～16:30(入場は16:00まで)
 大人500円、高校・大学生400円、小中学生300円
 臨時休館あり。
 問い合わせ：055-975-0566(宝物館)



MAP



2 法華寺

所在地:三島市東本町1丁目15-48
アクセス:三島田町駅から徒歩約5分

頼朝は平治の乱(1159)で、父、義朝や兄たちを殺されたことも影響し、信仰心が篤く、般若心経や法華経を写経し各地の神社や寺院に奉納しました。法華寺の墓地にある経塚は、頼朝の自写した法華経を埋めた塚として知られており、現在、その塚の上には地藏尊が祀られています。

Hokkeji

3 心経寺

所在地:三島市大宮町1丁目8-15
アクセス:三島駅から徒歩約10分

創立年代はわかりませんが、法相宗の寺であったものを頼朝の命によって真言宗に改められ、神鏡寺と呼ばれるようになったと伝わっています。その後、応永22年(1415)に臨済宗に改宗し、寺号も心経寺に改め、現在に至っています。

Shinkyouji

6 願成寺

所在地:三島市川原ヶ谷18
アクセス:三島駅より車で約5分

頼朝が百日祈願をしたときの宿舍となり、祈願成就によって天主君山願成寺の寺号を賜ったという寺伝が残っています。江戸時代、三嶋大社司宮司矢田部(やたべ)家の帰依(きえ)を受け、現在も社家一族の先祖供養を行っています。

Ganryoji

7 宗徳院

所在地:三島市松本414
アクセス:三島駅二日町駅から徒歩約25分
バス停宗徳院戸田入口・戸田から徒歩約3分

頼朝が百日祈願に通う折この寺の地藏菩薩に祈願したと伝わっています。門前の橋は頼朝の乗った馬が跳いてついたといわれる窪みがあったと言われますが、今は残っておらず、駒爪の橋の名前だけが残りました。橋を渡ると頼朝が足痛の祈願をしたという祠があり、寺には年代不詳ではありますが頼朝像が安置してあります。

Soutokuin

4 間眠神社

所在地:三島市東本町2丁目11-35
アクセス:三島二日町駅から徒歩約10分

三嶋大社の参道である下田街道を南に下って西側、大注連縄が目を引き間眠神社は、頼朝が三嶋大社に通う中、この神社の境内、松の根本でまどろんだという伝説があります。現在は六代目の間眠の松が植えられており、そばにある大石は頼朝が休んだと伝えられているものです。松の近くにあった小堂は三島市鶴喰に後に移され、周福寺となりました。

Madoromijinjya

8 周福寺

所在地:三島市鶴喰62
アクセス:三島市二日町駅から徒歩約7分
バス停藤代公園から徒歩約2分

もとは頼朝がいつも休んでいたという、稲荷社(間眠神社)前の小堂でした。建久元年(1190)、頼朝がこの地に移して寺とし、薬師如来及び両脇侍を安置して寺号を宝鼎山周福寺と名付けたといえます。

Syuhukuji

9 手無地藏堂

所在地:三島市中84-6
アクセス:三島二日町駅から徒歩約12分
(中区公民館に隣接)

頼朝がこのあたりを通ると後をつけてくる美女がいました。ある日話しかけてきたので、うるさく思った頼朝が美女の片腕を斬り落としたところ、手のない地藏になった、という伝説があります。片腕のない地藏は秘仏とされ、60年に1度、開帳されています。

Tenasijizoudou

5 妻塚観音堂

所在地:三島市東本町1丁目13
アクセス:三島田町駅から徒歩約7分

三嶋大社へ通っていた頼朝を付け狙う男がいました。ある夜、いつものように待ち伏せをしていた男は、闇に人影がうごめくを見て頼朝と思い一刀のもとに斬り伏せたところ、そこには変わり果てた自身の妻の姿がありました。この事態にうちひしがれた男は、一堂を建て妻の菩提を弔ったといえます。この男は相模の大庭景親(おおばげちか)と伝わっていることが多いですが、現在の多呂、北沢付近を領有していた大場兼近であるとも言われています。境内には妻塚の碑と石に刻まれた由来記があります。

Saiduka kannondou

10 右内神社

所在地:三島市梅名1
アクセス:大場駅より徒歩約13分

三嶋大社の守護神として、大社へ向かう下田街道の左右に左内神社とともに鎮座していました。頼朝が百日祈願の際たびたび立ち寄り参詣していましたが、境内に手洗い水がないため、なぎなたで参道傍らの地面を二、三度突いたところ水が湧き出したといわれています。現在、境内には「頼朝公手洗水」の碑と伝説を書いた看板があります。

Unaijinjya

★ 在庁道・頼朝道

三嶋大社を崇敬していた頼朝は、将軍となってからも大社の例祭には必ず参拝すると誓っていました。しかし、鎌倉からは遠く困難なため、安久に住む代表7人を選んで交代で代参をさせました。彼らは「在庁」もしくは頼朝の音読み「らいちょう」等と称し、源頼朝と同じ征夷大将軍の装束を許されていました。この代参に使われていた安久から北上し間眠神社横から大社へ向かう道が「在庁道」「頼朝道」と呼ばれていました。この代参は明治時代まで行われており、安久の長福寺西側には在庁を世襲した多呂家の屋敷があったといわれています。青木以南の在庁道は拡幅され国道136号となり今では面影がありませんが、間眠神社付近に当時のルートが残されています。

Zaityoudou/Raityoudou

Info 三島市郷土資料館(楽寿園内)

源頼朝についての常設展示中!
お問い合わせも受け付けています。

開館時間 午前9時~午後5時(4月~10月)
午前9時~午後4時30分(11月~3月)
(楽寿園入園受付は閉園30分前まで)
休館日 毎週月曜日(ただし、祝祭日の場合は翌平日)
年末年始(12月27日~1月2日)
入場料 無料
(ただし、楽寿園入園料が300円別途かかります。15歳未満は無料、学生は学生証提示にて無料)

〒411-0036 静岡県三島市一番町19番3号(楽寿園内)
電話番号:055-971-8228 FAX:055-971-6045
kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
アクセス:JR三島駅南口より徒歩5分

頼朝関連書籍も販売中!